

## 〔果樹〕

### 1. 常緑果樹

#### 1) 温州ミカン

開花期前後は平年より高温で推移、7月下旬と8月上旬を除き6-9月は低温で降水量も多かったが、10月は平年並みの気温となり好天に恵まれて乾燥傾向に推移し、糖度はおおむね平年並みかやや高くなった。しかし、11月中旬には高温に加えて多雨となり、浮皮果と水腐れ症が多発した。生産量は極早生、早生、普通温州いずれにおいても平年並みから不作となった。平成28年1月24・25日の記録的な寒波により落葉や枝枯れが生じた。

#### 2) 「不知火」系統品種

熊本県では発芽期は1日遅く、開花期は5日早くなった。着花量は多く果実も肥大良好であったが、やや不作となった。糖度は平年よりもやや低かったものの減酸がやや早く食味は平年並みとなった。8月25日に接近した台風15号により風傷果がやや多く発生した。

#### 3) ポンカン

大分県と鹿児島県では平年より5-7日ほど発芽が遅れた。着花量はやや少なく果実肥大は平年並み、生産量は大分県で平年並みとなったが、鹿児島県では台風が幼果期の5月12日、また、果実肥大期の7月26日及び8月25日に接近したため、風傷果が多発した。減酸は平年並みからやや早く、糖度、食味とも平年並みであった。

#### 4) 甘夏

熊本県では平年より発芽が2日遅れたが大分県では平年並みであった。果実肥大は両県とも平年並み、生産量も平年並みとなった。11月の高温により大分県では着色が遅延した。

#### 5) タンカン

鹿児島県では平年より7日遅く発芽した。果実肥大は平年並みだったが、台風が幼果期の5月12日、また、果実肥大期の7月26日及び8月25日に接近したため風傷果が多発し、不作となった。減酸は平年並みで糖度は平年より0.9度高く、食味は平年並みだった。平成28年1月24・25日の寒波により薩摩半島南部地域の露地栽培で寒害が発生した。

#### 6) ビワ

日照不足により着花は長崎県、鹿児島県とも少なく、生産量も長崎県で前年比60%、鹿児島県では45%と不作となった。果実肥大は長崎県で平年並み、鹿児島県では良好で、糖度はそれぞれ2.1度、1.2度高く食味は良好であった。

### 2. 落葉果樹

#### 1) ナシ

発芽は宮崎県で平年より4日遅かったほかは1-5日程度早かった。着花量はやや少から平年並みだったが、開花期が多雨であったため受粉が不調となり、生産量は前年比54-80%にとどまり不作となった。果実肥大は福岡県、熊本県、大分県で不良となった。熊本県、大分県、鹿児島県では8月25日に接近した台風25号で落果した。

#### 2) カキ

発芽は熊本県の「太秋」で平年より4日早かったが、福岡県と宮崎県の「富有」では平年並みか3日遅れた。着花量は平年並みかやや少なく、果実肥大も平年並みあるいは良好だったが、福岡県と熊本県では8月25日に接近した台風15号のより落果して不作となった。熊本県の「太秋」と宮崎県の「富有」は平年並みの食味となったが、福岡県の「富有」

は平年よりも糖度が1度低くやや不良であった。

### 3) ブドウ

発芽は福岡県の「巨峰」で平年より6日遅くなったほかは平年並みか最大で8日早かった。果実肥大はおおむね平年並みだったが、宮崎県の「ハニービーナス」では不良となった。生産量は台風の接近が少なかった宮崎県の「ハニービーナス」でやや豊作となったほかは、平年並みあるいは不作となった。長崎県と熊本県の「巨峰」では夏期の多雨と日照不足で果実品質が低下した。また、大分県では局地的にクビアカスカンバが多発した。

### 4) モモ

宮崎県では平年に比べ核割れ果がやや多発してやや不作となった。食味は平年並みであった。

### 5) キウイフルーツ

福岡県の「ヘイワード」では発芽が平年に比べ4日早く開花も4日早まった。着花量は平年並み、果実肥大は平年並みだったが不作となった。減酸は早かったものの糖度が低く食味もやや不良となった。Psa3によるキウイフルーツかいよう病が4-5月に一部地域で発生した。

### 6) イチジク

福岡県では3月26日に被った凍霜害で主枝が枯死した樹も認められた。8月中旬から9月上旬にかけて低温多雨で日照不足となり、また、8月25日には台風15号による被害のため、不作となった。